



丸根古墳からみつかった須恵器（右の2個壺、左の1個高杯）

29 丸根古墳跡 市指定史跡 荒尾町丸根

現在、市民病院分院の建っている丘陵の中腹にあった古墳で、明治初期に発掘されたと伝えられています。その後、大正期ごろに耕作によって須恵器の坏・高杯・壺などが掘り出されており、それらの遺物は郷土資料館に展示されています。昭和42年（1967）に調査が行われましたが、場所を特定することはできませんでした。古墳に副葬された遺物からみて、6世紀の後半に築かれた古墳と考えられます。

30 如来山の碑 荒尾町中切

星城大学のあるあたりは、かつては標高50mほどの小高い山でした。この山を如来山といいました。細井平洲は少年時代に遊んだ山をこよなく愛し、儒学者として大成してから、この地にちなんで「如来山人」という号（ペンネーム）も名乗りました。この由緒を書いた石碑が、同大学の西横に建てられています。

31 若き日の平洲像 富貴ノ台一丁目

加家公園の「花の小道」のちょうど星城大学の南にあたるところに、彫刻家の石田武至氏が作った「若き日の平洲像」があります。平洲が儒学者となる青雲の志を抱いて、勉学のため郷里を離れて遠く長崎へ旅立つ姿を現しています。



32 貴船神社 富木島町貴船

貴船神社は、愛知製鋼富木島社宅西側の木立ちの中にあります。このお社は、在原業平がこの地に住んだ時に、京都の鞍馬の貴布弥明神を勧請したものと伝えられています。このあたりには、在原業平にちなむ伝説が数多く残っています。

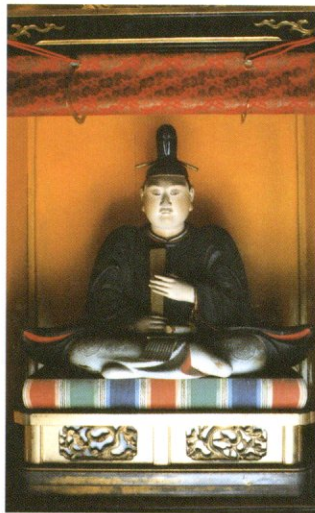
33 業平屋敷 富木島町貴船

在原業平は、平安初期の歌人で、六歌仙・三十六歌仙の一人として称えられています。容姿端麗で情熱的な和歌の名手であり、「伊勢物語」の主人公とされています。この富田の地にきた業平は、屋敷を構え永住しました。その屋敷は広大なものであったといわれ、後世になっても、里人は、親王様の御所といって跡地に何も建てませんでした。

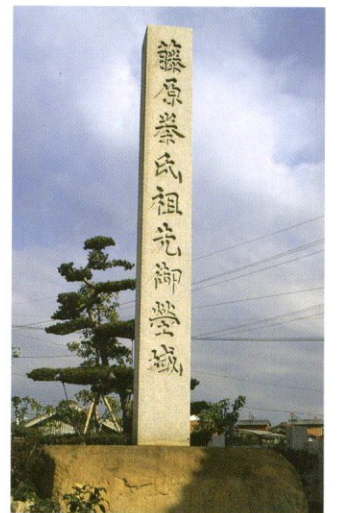


34 業平塚 市指定工芸品 富木島町外面

伏見の通りのガソリンスタンドのところに東に入った木立ちの下に、鎌倉時代の特徴をもった古い五輪塔が7基あります。いちだんと形のよい塔を業平塚と呼んでいます。これらの五輪塔は、この地を治め、良忍上人を生んだ藤原氏の一族が、業平と都から業平を慕ってこの地に来て、悲恋の死をとげた女官あやめの菩提塔として建てたものといわれており、宝珠寺移転前の寺院墓地でした。



在原業平座像



正法塚

35 宝珠寺 富木島町貴船

正徳3年（1713）に、業平塚あたりにあった寺を現在地に移転造営したといわれています。本堂には、在原業平の座像（市指定彫刻）や位牌（市指定工芸品）があり、左に建っている観音堂（市指定建造物）には、鎌倉時代の聖観音像（市指定彫刻）が安置されています。この他に、阿彌陀如来画像（市指定絵画）、釈迦十六善神画像（市指定絵画）があります。

境内に「発祥」の碑がありますが、融通念仏宗の開祖である良忍上人が、延久4年（1072）にこの地にあった富田の館で生まれたことを示しています。良忍上人の父は藤原道武といい、知多一郡を領して、ここ富田の荘に住んでいました。母は熱田神宮の大宮司の娘でした。幼名を「普徳丸」といい、後に出家して京都大原で「声明」とう仏教音楽を大成するとともに、融通念仏宗を開きました。この教えは、「人は一人で生きているのではない、皆のお陰で生きているのだ、従って、一人の中に皆があり、一人は皆のためにあらねばならない。」と説いています。

良忍は生前の高徳を称えられて、安永6年（1777）に後桃園天皇から、聖心大師の名号を賜りました。良忍ゆかりの虫供養は、現在も知多地方の各地にかたちを変えて残されています。

36 正法塚 市指定史跡 富木島町西才道

宝珠寺東方の小高い丘にあります。古い一石五輪塔がいくつかあって、「藤原秦氏祖先御堂域」の石標が建てられており、良忍上人の先祖の墓所としてまつられています。正法塚の名は、この地にあったお寺の正法山の山号と塚から名付けられたもので、別名を融通山ともいいます。